

会議等名	平成 27 年 第 4 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 27 年 7 月 31 日 (金) 9 : 00 ~ 10 : 50
場 所	海老名市役所 4 階 401 会議室
出席者	出席者：大治委員長、城向副委員長、市川副委員長、 阿部委員、諏訪委員、高橋委員、山田委員、 大島委員、菅生委員、霜田委員（以上 10 名出席） 海老名市：鴨志田財務部次長、伊藤企画財政課長（途中退席）、 石田政策経営係長事務代理、久保寺主任主事、横溝
<p>1 開 会 伊藤企画財政課長</p> <p>2 委員長あいさつ おはようございます。連日の暑さの中、ご苦労さまでございます。 平成 27 年度外部評価結果報告書の総括意見について、昨日、両副委員長と打合せを行いました。皆様のお手元に、修正案が事務局よりメールで配信されているものと存じます。早速ではございますが、総括意見について皆様でご議論いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>3 議 題【議事進行：大治委員長】</p> <p>(1) 平成 27 年度外部評価結果報告書について ※第 3 回外部評価委員会（7 月 21 日開催）で総括意見以外の部分については、概ね了承されたことから、正副委員長会議（7 月 30 日開催）で総括意見の見直し・修正作業を行い、修正案を本日の全体会に諮り、外部評価結果報告書を確定させる。</p> <p>大治委員長より正副委員長会議で作成した総括意見（案）を読み上げ ⇒各委員より、以下のとおり加除修正等の意見が出された。</p> <p>○修正箇所 1 2 外部評価全般についての総括意見（24 行目） 「3 ; 1 と 2 を達成する『市民に伝えようという意欲・工夫』」（原文） →「『市民のニーズを的確に捉え、それに応えようとする意欲・工夫』」（修正後） →「『市民の必要（ニーズ）に応え、かつ、理解を求めようという意欲・工夫』」（委員会終了後再修正 メールにて各委員確認済み）</p> <p>○修正箇所 2 総括意見 1 : 『事業の実態が分かる調書』を・・・・取組姿勢の改善が必要 □問題を指摘しても無視する怠慢（1 行目） 「評価対象の事業の中には、社会福祉協議会やシルバーセンターや・・・・」（原文） →「『評価対象の事業の中には、社会福祉協議会やシルバー人材センターや・・・・』」</p>	

(修正後)

○修正箇所3

総括意見3：行政評価調書と記載内容の改善を

□行政評価調書の問題点（7行目）

「・・・接続している（？）事情があるのはわかるが、・・・」（原文）

→「・・・接続している事情があるのはわかるが、・・・」（修正後）

○修正箇所4

総括意見4：施策評価について（原文）

→総括意見4：よりよい施策評価を目指して（修正後）

○修正箇所5

総括意見4：よりよい施策評価を目指して

□新設の評価基準に課題（原文）

→□新設の評価基準の点検を（修正後）

○修正箇所6

総括意見4：よりよい施策評価を目指して

□新設の評価基準の点検を

評価基準の整理と明確化が必要（原文）

→評価基準の整理と明確化を（修正後）

○修正箇所7

総括意見5：その他の個別意見・感想（5行目）

「ヒアリングを行った各所管課の業務は・・・」（原文）

→「ヒアリングを行った福祉所管課の業務は・・・」（修正後）

⇒事務局にて上記修正箇所を外部評価結果報告書（案）に反映させることで、報告書を確定版とすることとして了承された。

(2) その他

○市長報告会について【事務局より説明】

・日時、会場及び進行等確認

→例年、市長報告会については無報酬で各委員にご出席をいただいていたが、市長報告を含めて行政評価事務の一環であるといった整理を部内で行ったため、平成27年度より、通常の委員会及びグループ別作業と同様に各委員へ報酬を支払うこととした。

※参考：外部評価委員会の所掌事務について

海老名市外部評価委員会条例第2条第1項より「施策評価及び事務事業評価に関すること」とあることから、市長報告会を含めてこの所掌事務に含まれるものと整理した。

○今後のスケジュールについて【事務局より説明】

・市長報告会以降のスケジュールについて、確認をさせていただく。外部評価結果を含めた行政評価結果を評価対象事業（内部評価・外部評価対象事業）所管課へ事務局からフィードバックする。フィードバックされた所管課は行政評価結果を踏まえて次年度以降の各事業の取り組みについて計画を立て、事務局へ提出する。昨年度は各所管課から提出された次年度以降の取り組みを各委員にご確認いただき、委員長及び両副委員長を中心に選定いただいた事業（評価対象全 93 事業中、選定した 14 事業）について 10 月にヒアリングを実施したが、今年度は昨年度と同様、所管課へのヒアリングを実施するか。また、ヒアリングを実施する場合、その実施方法はどうか。昨年度の実施結果を踏まえて全体でご議論いただきたい。

<主な意見・質疑応答>

【委員】

各所管課に時間を作ってください、せっかくヒアリングを受けていただいても、行政評価結果を踏まえて「次年度以降の参考にさせていただきます」といった内容の回答をいただくばかりでは、実施する意味がない。ヒアリングの実施方法を変える必要がある。

【委員】

評価を下した以上は、その評価がどのように反映されているのかを確認するために昨年度はヒアリングを実施したはずである。各所管課からの回答はおおよそ想定範囲内であったため、昨年度と同じ方法で実施するならば、ヒアリングを実施する必要はないと考える。

また、評価結果を 8 月に各所管課へフィードバックし、10 月にヒアリングを行うまでのわずか 2～3 か月間で各所管課は次年度の事業に反映できるだろうか。今年度、評価内容が来年度に反映されるとは思えない。評価結果を踏まえた今後の事業の方向性等に係るヒアリングは毎年実施するのではなく、数年に 1 回実施するなど、所管課へ一定の期間を与えた方が効果的ではないか。

したがって、今年度はヒアリングを実施しなくてもよいのではないか。

ただ、気になるのは来年度以降の外部評価委員会のメンバー構成についてである。今年度は任期の 2 年目であることから、来年度はメンバー構成が変わる可能性がある。その際、また同じ議論になってゼロからのスタートになっては意味がない。

今年度はヒアリングを実施するのではなく、各委員からの総括意見としても出されているように、行政評価調書や施策評価シートの見直しを行う等、メンバー構成が変わっても次年度に繋がる取り組みを実施してはどうか。

【委員】

事務局としてはヒアリングを効果的に実施するイメージ（案）のようなものは想定されているのか。

【事務局】

ヒアリングに対する具体的なイメージは特にない。

【委員】

実施計画は毎年度、見直しを行っているのか。

【事務局】

毎年度、行っている。

【委員】

次年度の実施計画の策定及び次年度の予算編成にあたって、外部評価結果が活かされなければ意味がない。所管課が各事業の評価結果を受けて、次年度の事業方針・計画を立てて予算要求を行う流れが確立されれば外部評価の効果が表れると思う。

【事務局】

現状、次年度の予算要求を行うにあたって、各部で事業方針・計画を立てている。

【委員】

事業方針・計画を立てるのはいつ頃か。

【事務局】

10月に予算編成会議を実施するので、11月頃に事業方針・計画を立てる。予算要求書と併せて次年度の事業方針・計画を出している。

【委員】

所管課が行政評価結果を受けて、次年度の事業方針・計画に溶け込ませる時間は取れているのか。

【事務局】

行政評価結果を事務局から所管課へフィードバックするが、所管課がその結果を受けて次年度の事業方針・計画に溶け込ませる時間が十分取れているかという点、十分ではないかもしれない。

【委員】

今年度（平成27年度）は平成26年度の事務事業を評価した。これが次年度（平成28年度）の事務事業に反映されないとすると事業の実施から評価結果を溶け込ませるまでに相当な時間を要してしまう。

行政評価結果は市職員のみならず、市議会議員にも読んでいただき、議会でも行政評価結果を踏まえた予算に係る質問をしていただくのも一つの方法だと考える。議員から市側に対して質問をしていただくと、評価結果の事業への反映が早くなるのではないか。

【事務局】

市議会議員にも行政評価結果をポスティング（配布）している。

【委員】

市議会議員からの質問等により市側が評価結果を事業へ反映させるという流れは市内部の本来のPDCAサイクルではない。外部（議員等）からの指摘によるのではなく、市側が自発的に評価結果を踏まえて事業方針・計画を立てるべきである。

【委員】

ヒアリングの実施時期は別として、所管課に行政評価結果を意識づける意味でもヒアリングは実施した方が良いと考える。

【委員】

行政評価結果を所管課にいち早く事業へ溶け込ませてもらうためには、評価を行った年度と同年度にヒアリングも実施するべきである。所管課に2～3年の期間を与えて、その間に事業へ溶け込ませるよう指示をしても、対応できないことが想定される。

市長への報告を行い、次年度の事業方針・計画を立て、予算要求を行うことを考えると10月頃がヒアリングを実施するベストの時期ではないか。このタイミングを逃

がすとヒアリングの意味がないように感じる。

【事務局】

次年度の事業に外部評価の結果を反映させることを考えると、10月にヒアリングを実施することが望ましいのではないかと。

【委員】

所管課へのヒアリングはPDCAの集大成であり、これをもって行政評価が完了すると考えるとヒアリングは実施すべきである。例えヒアリングが形骸化したとしても、所管課に行政評価を意識づける意味では良いのかもしれない。

【委員長】

今年度も所管課に対するヒアリングは実施することとする。所管課が評価をどのように受け取ったかをチェックする意味では重要である。

ただし、ヒアリングを実施するにあたり、どのように課題を設定するかが問題である。各グループ（A・B・Cグループ）からそれぞれにヒアリングの課題（テーマ）を一つずつ出すこととしてはどうか。課題（テーマ）が多すぎてもヒアリングで聞き出せない。課題（テーマ）を絞って、それに則ってヒアリングを実施する。

面白みのある課題（テーマ）を設定しておけば、委員と所管課で内容のある意見交換ができるものとする。

【事務局】

ヒアリングの対象とする所管課はどのように選定するか。昨年度は委員長及び両副委員長を中心に選定いただいている。

【委員長】

今年度も最終的には委員長及び副委員長が中心となってヒアリングの対象課を選定することとしてもよいが、各グループで検討いただき、その意見が反映されるよう対象課を選定することとしたい。

【事務局】

行政評価結果を受けて、各所管課は今後の方向性を検討する。事務局で各事業の今後の方向性を取りまとめて委員の皆様を示すので、これを受けて、ヒアリングの課題（テーマ）設定と対象課を選定してはどうか。

また、昨年度のヒアリングはグループ別ではなく、外部評価委員会全体でヒアリングを実施したが、今年度も全体でヒアリングを実施することとして良いかと。

【委員】

評価作業はグループ別に実施したことから、ヒアリングは全体で実施することにより、グループ間での意見の共有が図られて良いのではないかと。

【委員】

ヒアリング実施前にグループ作業を実施して、グループ内での課題（テーマ）の抽出、対象課の選定、意見の統一を図ってはどうか。

【委員長】

それでは、9月中旬にグループ毎に集まって作業を行っていただくこととしてよいか（→委員から異議なし）。

事務局が主導して、グループ毎の作業日程を調整いただきたい。

【事務局】

現時点ではグループ作業時期を確定できないため、9月中を目途に開催することと

し、なるべく早い段階で日程調整ができるよう準備を進める。

○施策評価に係る次長へのヒアリングについて

- ・今年度、初めての取り組みとして施策評価に係る次長へのヒアリングを実施したが、実施してみた感触等、委員の皆様から意見を伺いたい。

<主な意見・質疑応答>

【委員長】

委員から寄せられた総括意見の中には、次長のヒアリングを実施して良かったとの意見があった。

【委員】

7月30日に開催した正副委員長会議でも意見を述べたところであるが、Aグループ及びBグループは“こなす”事業が多い中、Cグループは比較的、建設的な議論ができる事業が多かったことから、Cグループとしてヒアリングを実施した感触では、非常に有意義であったと感じた。

建設的な施策や事業、市の根幹にかかわる施策や事業についてはグループ毎ではなく、外部評価委員全員でヒアリングや評価を行っても良いのではないかと考える。

次年度の評価作業、ヒアリングの実施にあたり、事務局でも検討いただきたい。

評価対象事業を4分割し、そのうちの3つをA・B・Cの各グループで評価、その他の1つを全体で評価するようにしたら良いと思う。

【委員長】

委員の皆様から次長ヒアリングを今年度限りでやめるといった意見は出ていないことから、次年度以降も実施する方向になると思う。

義務的な事業を束ねる施策を評価したグループと裁量のある事業を束ねる施策を評価したグループで、ヒアリングの感触も異なるものと思う。

また、内部評価委員でもある次長に対してヒアリングを実施して感じたことは、外部評価委員の私たちもそうであるが、内部評価委員の次長も“施策評価とは何か”といった基礎の部分がぼやけているように思う。一応、フォーマットに則って評価を行ったものの、施策評価を何のために実施しているのかについて改めて整理する必要がある。ただし、施策評価及び次長へのヒアリングをやめるといった議論はないものと考ええる。

【委員】

事務方の最高責任者という位置付けでヒアリングの対象者を次長としているものと思うが、外部評価委員側が何の準備もなしにヒアリングに臨むと次長からの回答内容に影響されて、外部評価委員としての評価ができなくなる。

したがって、Cグループに関してはグループ内で統一した評価を実施し、ヒアリングで質問すべき事項を確認した。

ヒアリングを実施するからには外部評価委員としても事前に準備をして臨む必要があると感じた。

【委員長】

事務局は次長ヒアリングを実施して感じたことはあるか。

【委員】

Cグループの評価作業およびヒアリングに同席させていただき感じたことである

が、事業評価についてはヒアリングを実施した後にグループで評価を行い、全体的な流れとしてスムーズであったが、施策評価についてはヒアリングを実施した後にグループで評価を行おうとしても作業がスムーズには進まなかった。先にグループ内で評価を実施し、その後、質問内容を整理した上でヒアリングに臨むことにより、効率的に必要な質問ができていたように感じる。施策評価については、グループ内で先に評価作業を行い、ヒアリングに臨む方法をとっても良いのではないかと感じた。

【委員】

施策評価については施策評価シートの構成（各項目）が曖昧であることが評価作業をより難しくしていると感じる。

施策評価シートの各質問項目をより詳細なものにし、委員全員が共有できる一定の基準を設ける必要があると考える。

施策は事務事業よりも抽象的であるため、抽象的なものを抽象的に評価すると分かりにくくなってしまう。

2年連続で施策評価を実施して、今年度は次長へのヒアリングも実施し、各委員から施策評価について多くの意見が出されている。次年度は委員構成が変わる可能性があることを踏まえると、今年度中に現状のメンバーで施策評価シートをある程度、完成度の高いものに作り上げる必要がある。来年度になり、新しい委員構成になるとまた議論がゼロに戻ってしまう。

○行政評価調書・施策評価シートについて

・外部評価結果報告書の作成にあたり、委員の皆様から総括意見をご提出いただいた。多くの委員から行政評価調書及び施策評価シートへのご意見をいただいたため、今後、事務局にて行政評価調書及び施策評価シートの改定版（案）を作成することとした場合の参考に、具体的にご意見を頂きたい。なお、いただいたご意見が必ずしも反映できるわけではないことにご留意いただきたい。

<主な意見・質疑応答>

【委員】

行政評価調書の書式については市側から修正して案を示していただきたい。行政職員が見て、書きやすく見やすい書式に変えていただいたものを外部評価委員会で諮ってはどうか。

活動指標・成果指標欄があるものの十分な記述がなされていないものが多かったように感じる。活動指標・成果指標は外部評価をする上で、ポイントとなることから記述を徹底していただきたい。

【事務局】

次回の外部評価委員会で、事務局から行政評価調書及び施策評価シートの改定版（案）を提示させていただき、外部評価の基準のようなマニュアル的なものを作成できれば併せて提示させていただく。

【委員長】

総括意見の中にも行政評価調書に対する具体的記述がある。例えば事業計画は10年分の記述欄があるものの、同じ事業計画がコピーされて張り付けられているだけである。外部評価委員が個々の事業を評価する際に、事業計画は10年分も必要ない。むしろ事業実績が必要であり、事業実績欄は不足していると感じる。

活動指標・成果指標は評価を実施する上での大部分を占める要素である。書式の問題に留まらず、調書を作成する所管課の意識の問題もある。

書式を変えられるのかどうかといった問題に派生するが、市側の都合もあってなかなか書式を変えることはできないものと認識している。

事務局で検討していただき、他の自治体の行政評価調書等を参考にしながら案を示していただければと思う。

【委員】

事業費欄、人件費内訳欄が分かりづらい。事務局で案を作成する際に検討いただきたい。

【委員長】

市側が作成した行政評価調書を見て、外部評価を行うのは一般市民であることを念頭に置き、分かりやすい案を作成いただきたい。

【事務局】

承知した。

4 閉 会

鴨志田財務部次長

以 上